

アメリカスポーツとイギリススポーツのジャッジ方法の違い

The difference of the judgment method in the British sport and a U.S. sport

1K08B100-7 島田淳哉

指導教員 寒川 恒夫 先生 副査 石井 昌幸 先生

【目的】

私は高校生のころ、バスケットボールマンガを読んでいた際、とても不思議に思った。なぜ、二人の審判がホイッスルを持っているのだろう、と。サッカー、ラグビーなどのイギリススポーツは一人の審判のみがホイッスルを持ち、判定をすることが許されている。逆に、バスケットボールなどのアメリカ生まれのスポーツは複数の審判がジャッジを下し、試合を運営している。私は、このように、イギリスという国と、アメリカという国で生まれたスポーツのジャッジ方法が違う理由をそれぞれの国の文化や風習、その中でスポーツの成り立ちなどを調べることで、イギリススポーツ、アメリカスポーツのジャッジ方法の違いを考察することを目的とする。

【方法】

主に、関連書籍での研究により、イギリススポーツではどのようなことを重要視し、一方でアメリカスポーツでは、どのようなことを重要視しているのかを探る。例えば、スポーツはイギリス国内ではどのような目的で行われ、アメリカ国内ではどのような目的で行われていたのか、だとか、どのような経緯で両国内でのスポーツが発展の道をたどったのかということである。そのようなことを調べることで、イギリス人が持つスポーツ観やスポーツへの思い、アメリカ人が持つスポーツ観やスポーツへの思いを比べ、両者の違いを読み解いていく。その結果により、イギリスという国、アメリカという国の両国の文化や、風習などがそれぞれの国で生まれたスポーツのジャッジの方法にどのような違いを生んだのかを浮かび上がらせる。

【結果および考察】

結果としては、やはりイギリス、アメリカ両国のスポーツに対する姿勢やそのスポーツを生んだ環境の違いが、ジャッジ方法の違いとなって表れていたことが分かった。

例えば、イギリススポーツの発展してきた過程の中では、パブリック・スクール内の「鍛錬」や「ルールのみをすり合わせ」というものがある。鍛錬とは、あくまでもスポーツは教育の一環であり、必ずしも勝敗が全てではないという考え方である。また、ルールのみをすり合わせとは、様々なルールの下、フットボールが行われていたわけであるから、ルールが違うチーム同士の試合は、両チームの納得したルールで、また納得した審判で試合をする。なので、お互い文句を言いあうことをしなかったのである。

また、アメリカでは、いち早く「プロスポーツ」という概念が誕生した。これはスポーツをすることでお金をもらうということであるが、お金を払ってもらうためには、そのスポーツは見ている楽しさがない。つまり、アメリカスポーツは、イギリススポーツのように、スポーツをすること自体に価値を置くのではなく、自分たちの行うスポーツを見て、楽しいと思ってもらい、お金を払ってもらうために、見せるスポーツに価値を置いたのである。つまり、イギリスでのスポーツに対する価値観は、「するスポーツ」というものに重きを置かれている。その一方で、アメリカでのスポーツに対する価値観では、「見るスポーツ・見せるスポーツ」に重きが置かれているのである。

以上の結果から、私はイギリススポーツでのジャッジを一人で行う理由は、イギリススポーツが元来、エリート教育を重要視し、スポーツを教育の一環として行っていたという歴史や環境の中で、ルールを皆が納得出来る形に整えてきたからであり、また、アメリカスポーツは、常に「見る人」というものを重要視し、スポーツを見てお金を払ってもらうことで成り立ってきたという歴史の中でルールを作ってきたからであるということを行うことが出来たのである。